

授業科目：	精神看護学概論		
科目区分：	看護学科専門科目	受講者数：	60名
担当者：	井上 誠（保健福祉学部看護学科）		
アクティブ・ラーニングのタイプ：	行動型	・ 参加型	・ 複合型（※行動型・参加型 AL を組み合わせて実施）
キーワード（具体的なAL手法等）：	個人ワーク、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション		

1. 授業の概要と目標

看護の対象となる全ての人の精神保健をライフサイクルと生活の場の視点から説明できる。現代社会における心の健康問題として急増する不適応について説明できる。人間の心を理解するための基礎的知識について身近な体験と関連付けて説明できる。授業を通じて援助対象者の体験を分かろうとする態度を身につけるとともに、学生自身のメンタルヘルスを振り返りストレスマネージメントについて考えられる。地域精神保健の現状を身近な例を挙げて説明できる。精神医療の歴史と法律の改正経過および精神看護の倫理を関連付けて説明できる。本科目は精神看護学の基礎であり、精神看護方法論につながる重要な科目として位置づけられる。

精神看護学の位置づけとその学習内容を概観する。精神保健の概念を学び、心の健康を深く考える機会をもつ。心を理解するための諸理論やモデルを学ぶ。現代社会における精神保健の現状をライフサイクルと生活の場の視点から概観し、地域精神保健活動の現状について理解を深める。臨床における患者・家族および看護師自身の精神保健について学び、総合病院などの場において彼らを支援するリエゾン精神看護についても理解を深める。さらに精神疾患をもつ人への処遇の歴史を精神保健医療の沿革や関連法規を通じて学び、人権擁護の意識や倫理観を養うための基礎とする。

2. アクティブ・ラーニング導入の具体的な流れ

○科目名 精神看護学概論 第10回、11回、12回リエゾン精神看護事例検討

段階	指導過程・学修活動	指導上の留意点(工夫)	評価方法
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・前回までの振り返り ・なぜリエゾン精神看護を学修することが重要なのか理解する。 ・個人ワークとグループワークの流れについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・精神看護概論講義の内容を思い出して頂く。 ・リエゾン精神看護について学修内容を理解する。 ・流れを確認してどのように展開するのか、イメージして頂く。 	
展 開	<p>1回目 2回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本事項の説明(10分) ・質疑応答 個人学修 ・個人ワーク 事例を読み取る、理解する。 <p>2回目 3回目</p> 共有学修 <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク 看護目標 情報アセスメントなどについて個人ワークをもとにグループでまとめる。 ・事例をもとにグループワークで検討したことをロールプレイにて発表して、クラス全体で共有する。 意見交換 ・質疑応答をおこない、意見交換をおこなう。 ・振り返りをおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本事項が理解できたか確認する。 ・個人ワークの進行状況を確認する。 ・グループワークの進行状況を確認する。 ・グループワークが苦手な学生、参加していない学生がいないか確認する。 ・出来ている、よい意見はしっかりと褒める。 ・もう少し知っていて頂きたいポイントを押さえる。 	

まとめ	講義の振り返り ・事例について振り返る。 ・学生が出来ていたポイントを伝える。 ・知つておいて頂きたい知識やポイントを再度確認する。	・知つておいて頂きたい知識やポイントを押さえる。 ・達成感を共有する。	個人ワークとグループワークのレポート、グループ発表の内容により評価しています。
------------	---	--	---

3. 成果・効果

グループワークと発表前に、学生が個人ワークにて課題に向き合い、それからグループワークに入った方がグループワークの時の意見交換が活性化するようであった。

学生から、「精神科に勤めなくても精神看護は活かされることがわかった」「その事例がしっかり理解できた」など意見があがっていた。

4. 課題

- ・ロールプレイにて発表後、意見交換がなかなか出来ていなかった。
- ・看護2年生では基礎学習の段階なので3年生でこの内容をいれた方がよいと思われた。
- ・精神看護をもっと興味がわくように学生のニーズ、医療現場のニーズを把握したうえで講義内容を変更していきたい。

5. 資料

なし